

## 養護施設における衣生活の一考察

—京都市，府下の養護施設実態調査を基礎にして—

花 田 順 信

### は し が き

人間がなぜ被服をつけるようになったかについては、気候などへの適応、装飾、恥、異性を引くためなど、いろいろ説があるようであるが、被服には、身体の保健衛生を目的とする生理的（寒冷、暑熱、外傷等から身を守る）な機能と、装飾、審美等の役割を果たすと共に、社会生活に適応していく為の徳義、儀礼に沿う美的な機能の二面に大別することが出来るであろう。

人類文化の進むに従い生活様式は複雑となり、被服の果たす役割も次第に多くなって、社会生活をしている以上、文化社会の常識的な礼儀として、自己の外見、容姿を適度に美しく、服装を整えて他人に好感を与えることは現代人のエチケットでもあり、人間生存に欠くことの出来ない被服は決して「着てさえいけばよい」というものではない。

人間として生きていく為の欠くことの出来ない基本的要求である衣、食、住即ち、生きる為に必要な栄養、衣服、住居は、児童は一般にその保護者の所得により保障され、衛生面、身だしなみ、趣味性等の躰は家庭で行なわれるのが本来の姿である。

しかし、社会の現実には多くの不幸な児童をつくりつつある。これらの児童の多くは養護施設や他の児童福祉施設において生活している。施設児童と云えども、健康で文化的な生活が確保されなければならないことは、児童憲章はもとより、児童福祉法その他児童福祉に関する諸法で明らかなところである。

戦前はともあれ、終戦後5年位は国民全てが手持ちの衣類を食物にかえて飢を凌いだ、いわゆるたけのこ生活といわれた時代である。施設においては、孤児、浮浪児、棄児等が雑然と収容され、日常生活維持を保つことが如何に困難であったかについては戦後の社会事業史に於て明らかなところであるが、被服の面では、衣料なく、学童服等は修繕の上に修繕を重ね、足袋靴下等は母母が不用衣類の中から良い布だけ選んで造り履かせた。又それに必要な糸がなく、不要布等から織り糸を抜き取りそれにあてた。こうした血の惨む様な職員の生活の知恵で支えられていたのである。

しかし、ララ物資により、当時、一見して施設児童と解ったのもこの頃であり、反面では一般家庭児童をして羨ましがらせたのもこの時期である。

昭和27年頃より、除々に種々の物資が出回り始め、昭和30年頃には、衣料に対する統制が撤廃され、衣生活も戦後十年で戦前の水準に回復し、続いて訪れたのが大量消費の時期である。

一般家庭では、他の生活分野に比べて衣生活面が飛躍的に充実していった。この時期に施設に対して全国的に衣料を贈る運動が盛んに行なわれたが、しかしながら、これらは直ちに着用出来るものは非常に少なく、職員の手不足と合せて修理が出来なく、利用する迄に至らなかった。

しかし、その後天然繊維に代って、優れた特色を持った数々の人造繊維の創造、化学繊維の出現、電気製品の開発等により、衣生活は質的にも量的にも合理化され、かつ豊富になり、昭和36年～37年頃をさかいとして、防寒必需的なものから、奢侈的なものといった衣生活の面で大きな転換が見られた。いわゆる「使い捨て」「着捨て」という言葉に表現されるように、今や衣生活は、時間、場所、場合に依じてそれぞれにマッチした衣生活を楽しむまでになって来た。

しかしながら、施設においては、措置費は物価の上昇に追い付けず、児童の要求はもとより、衣類の質、量をみるとき、決して満足出来る状態ではなく、衣料事情は以前として寄贈品に依存しなければならないのであり、衣類の種類、量的、質的な向上実現には、今後かなりの年月を必要とするであろう。

今日、施設では食生活、住生活の面において研究も進み、改善、改良がなされつつあるが衣生活の面では、その必要が叫ばれながらたえず「食」に優先され据置きの状態である。

施設の衣生活に視点を合せ、被服の状況、保母の任務と衣生活の関係等について、その実態把握のため養護施設における衣生活実態調査を、京都市、府下の養護施設を対象として実施した。なお、精神薄弱児施設及一般家庭児童の衣生活とも関連させ、調査を実施した。

## 1. 調査の目的

人間が社会の中で生きていくための基本的要求を最小限に満たすものが「衣、食、住」である。児童の健全な育成は、これら衣生活<sup>(註1)</sup>、食生活、住生活の相互のバランスを保持することにより達成されるものであると考えられる。衣服は、ただ着ておればよいかと、保温、皮膚の保護等の実用的な機能や保健衛生的な機能の手段としてのみだけでなく、人間本来の「美」に対する要求は、自身を美しく見せたいという事から先づ被服に表現される。それは児童の身心の発達特に情緒面の発達に多大な影響を与えるものである。

施設児童と云えども健康で文化的な生活が確保され、児童のおかれている社会的な立場、情緒面の発達、身心の発達に十分適合した被服が調達確保されなければならない。

今日、児童福祉施設では低い保護単価、激しい物価高、人手不足等のもとに食生活が優先され、衣生活については、その必要が叫ばれながら、その研究、改善が立ち遅れている現状である。

以上の観点にたつて、次の各項に留意し、調査するものである。

- A. 年令的に成長過程にあたるこの間の衣生活はどのように行なわれているか
- B. 低い保護単価、人手不足、物価高の中にあつて、衣生活指導がどのようになされているか
- C. 児童の情緒、身心の発達に充分適応された被服が調達されているか。
- D. 児童の好み、要求、個性が充分生かされているか
- E. 保母の労働と被服の関係について

本調査は「養護施設における衣生活の実態」把握と同時に、施設における衣生活のあるべき姿を研明せんとするものである。

2. 調査の内容

- イ. 措置費の被服に対する支出状況
- ロ. 被服, 寝具の状況
- ハ. 児童の被服所持状況
- ニ. 児童の衣生活に対する意識について
- ホ. 衣生活指導について
- ヘ. 被服管理と保母の労働について
- ト. その他

3. 調査の対象

京都市内, 府下の養護施設 9 施設。精神薄弱児施設 4 施設

4. 調査の方法

調査用紙を事前に施設に送付依頼し, 調査員が施設長及び担当保母に面接, 質問して調査用紙に記入した。

5. 調査の期間

昭和43年 8 月 1 日～ 8 月30日

6. 調査結果の概要

(1) 措置費と被服寝具費の分析

施設における被服寝具費は(註2), 措置費の内訳からもわかる通り(表-2), 日常諸費に含まれている。日常諸費の運用は各施設に任されており, 被服寝具費は, 日常諸費の中から日用品費, 保健衛生費を除いた額である。

養護施設, 精神薄弱児施設にあっては, これらの費目はどのように取り扱われているのであろうか, 表-3 は各施設における被服に対する各費目の運用をまとめたものである。肌着, 上着, 寝具等は被服寝具費を充当しているが, 各物品に対する費目の用途は各施設により異なり, 靴, 傘等の身の回り品は日用品で, 同種類の物品であっても用途(例へば通学用と普段用)に応じて, 保健衛生費, 教育費, 入進学支度金より支出されている。

表 1 生活諸費の年次推移

児童 1 人当り日額単価

年度	費 目	生活諸費	内 訳	
			日常諸費	飲食物費
S. 31年		78円33銭	16円65銭	61円68銭
32		87 13	19 45	67 18
33		87 22	19 45	67 87
34		87 22	19 45	67 87
35		90 72	19 45	71 27
36		102 39	24 31	78 08
37		119 61	30 30	89 31
38		138 43	37 03	101 42
39		160 79	41 84	118 95
40		178	46	132
41		202	53	149
42		230	60	170
43		253	68	187
44		281	77	204

表2 養護施設及び精神薄弱児施設の措置費の内訳

措置費	事務費	生活諸費	飲食物費	—被服寝具費 —日用品賃 —保健衛生費
	事業費	生活諸費以外の事業費	—教育費(義務教育用の教科書代) 学用品代・通学用品代 実験学習見学費	—*入進学支度金(小学1年, 中学1年への入学, 進学に必要な学童服, 帽子, クツなどの購入費)
			—生活指導訓練費(小学4年以上の者のいわゆる小遣)	—就職支度費
	生活諸費	以外の事業費	—学校給食費 —医療費 —児童用採暖費 —連れもどし費 —葬祭費	—期末一時扶助費 —見学旅行費

〔注〕

\*印は児童の衣生活に直接関係のある費目

表3 被服の物品別費目調査

	……被服寝具費		……入進学支度金
	……日用品賃		……施設に該当するものなし
	……保健衛生費		……寄贈品でまに合う
	……教育費		……不要衣類(廃品)から得る

施設	物品	A	B	D	E	F	G	J	K
肌 着									
上 着									
制服(学生服)									
寝具・ねまき									
履物(通学用)									
〃 (普段用)									
手 袋									
ハ ン カ チ									
傘									
ベ ル ト									
帽 子									
く つ し た									
タ オ ル									
カ ー テ ン									
洗濯石ケン									
洗濯石ケン									
クリーニング代									
ボタン・ファスナー									
裁縫用具									
靴の修理									

← 養 護 施 設 → 精 薄 児 施 設 →

## (2) 寄贈品

施設における全ての被服は、被服寝具費の実状からまだまだ寄贈品なくしては考えられない現状である。寄贈品は地域団体、特に婦人団体からの寄贈が比較的多く、後援会等によって四季を通じてかなりの量が寄せられるようである。購入品と寄贈品の割合を調べたものが表-4、表-5である。寄贈品と購入品との割合は施設により非常に相違が見られる。

## ア. 肌着, 下着

肌着, 下着は各施設においても上着に比して新品の購入度が高い, それは年令に比例している。男女にかかわらず年令が増すに従い共有を拒む傾向が強くなり, 幼児はサイズが合えば共有で着用させているようである。

肌着, 下着等の寄贈品は家庭に於ても洗濯等がはげしく, いたみも早い為廃棄処分する為に漸次減少の様である。

## イ. 上着

施設により購入と寄贈との割合に大

なき差が見られるのがこの上着である。

上着は量からみれば寄贈品の中で第1位を占めているが、そのほとんどは中古品であり、しかもそれらは寄贈即着用出来る物は全体の半あれば多い方であるという。

#### ウ. 寝具、まねき

前者の二つに比較すれば少ないが、寄贈品のほとんどは新品である。これは施設にあらかじめ希望を聞いて調達し寄贈する様である。大手メーカーや、強力な後援団体、施設の縁故関係に限られているともいえる。

ねまきはほとんど購入されている。ゆかた等が寄贈品の中にまれにふくまれていることもあるが、施設では一人一人にゆかたを新調してやることが出来ないのも、こうしたゆかたはねまきとして使用せず、夏の行事（盆踊り、花火大会、夕涼み等）用に使っている場合が多い。

#### エ. 履物

寝具、ねまきと同様非常に寄贈品の割合は少ない。幼児物が少量ある程度で学童用は皆無に近い。（施設により全児童の長靴や運動靴が数年に1回程度寄贈を受けている処もある。）

履物は購入度合の第1位を占めている。これは運動がはげしい児童を収容している施設であってみればうなづけられるところである。又、履きかえのないことも一つの理由であろうか。

#### オ. 寄贈品に対する意見及び希望

アンケートの結果を要約すると次の様である。

- ・ 施設に対する認識不足の為に寄贈受理即廃品というケースが非常に多い。修理せねばならぬが手不足の為に放置されている現状で、被服の数は相当量あるが着用出来ない現象をおこしている。
- ・ デザイン、色彩、形体等の好みもあるので、中古品よりも少量でも部品が欲しい。
- ・ 靴下の寄贈をして欲しい。特に幼児用及中学生男子、女子の靴下に希望が多い。
- ・ 小学生高学年及ば中学生男子の被服全てに不足している。

施設に於る衣生活運営は以上のことから、今日寄贈品なくしては考えられないであろう。

表4 購入品と寄贈品との割合（％）

（京都市内・府下の養護・精薄施設合わせて9施設の平均）

品目	種別 用途	購入品			寄贈品		
		幼児	小学生	中学生	幼児	小学生	中学生
肌着・下着		55	52	58	45	48	42
上着		30	25	40	70	75	60
寝具・ねまき		76	77	86	24	23	14
はきもの		82	90	90	18	10	10
運動着		0	63	49	0	37	51
制服		0	0	100	0	0	0

表5 施設別購入品と寄贈品との割合

品 目	施設 種別 用途	A		B		C		D		E		F		G		J <sup>※</sup>		K	
		購	寄	購	寄	購	寄	購	寄	購	寄	購	寄	購	寄	購	寄	購	寄
下 着 ・ 肌 着	幼 児	100	0	20	80	100	0	30	70	20	80	50	50	70	30	50	50		
	小 学 生	100	0	20	80	100	0	40	60	10	90	70	30	70	30	50	50	10	90
	中 学 生	100	0	20	80	100	0	40	60	30	70	90	10	80	20	50	50	10	90
上 着	幼 児	0	100	70	30	0	100	40	60	10	90	50	50	70	30	0	100		
	小 学 生	0	100	30	70	0	100	30	70	20	80	70	30	70	30	3	97	5	95
	中 学 生	0	100	70	30	0	100	30	70	30	70	100	0	80	20	3	97	5	95
寝 具 ・ ね ま き	幼 児	90	10	80	20	50	50	90	10	10	90	100	0	100	0	90	10		
	小 学 生	90	10	80	20	50	50	90	10	30	70	100	0	100	0	90	10	95	5
	中 学 生	95	5	90	10	50	50	90	10	70	30	100	0	100	0	90	10	95	5
は き も の	幼 児	95	5	90	10	100	0	90	10	50	50	100	0	50	50	90	10		
	小 学 生	95	5	90	10	100	0	90	10	60	40	70	30	100	0	90	10	95	5
	中 学 生	100	0	90	10	100	0	90	10	80	20	100	0	80	20	90	10	95	5
運 動 着	幼 児																		
	小 学 生	20	80	80	20	100	0	90	10	50	50	100	0	100	0	3	97	30	70
	中 学 生	20	80	50	50	100	0	90	10	50	50	100	0	100	0	3	97	30	70
制 服	幼 児																		
	小 学 生																		
	中 学 生			100	0	100	0	100	0	100	0			80	20				

表6 寄 贈 品 の 状 況

対象＝養護，精薄児施設，市内，府下含めて10施設

①	多い物から順位 をつけて下さい	結 果	
		順 位	%
	下 着 ・ 肌 着	2	70
	上 着	1	80
	運 動 着	5	30
	寝 具 ・ ね ま き	4	40
	は き も の	3	50

②	多い物から順位をつ けて下さい	結 果	
		順 位	%
	新 品	4	40
	中古品（補修の必要なし）	2	70
	〃 （補修の必要あり）	1	80
	〃 （はなはだしく補修の 必要あり）	3	60
	廃 棄 処 分 す る も の	4	40

③	多いものから順位をつ けて下さい	結果順位
	1 ～ 6才	2
	7 ～ 12才	1
	13 ～ 18才	3

③ 購入

購入に際しては担当保母があらかじめ個々の児童の所持枚数や種類の有無、好み、日常の取り扱い方を調べ、必要に応じて購入するが、その方法は各施設とも別に決められたものはない。(表-7)

購入度合については、多い物から肌着と下着、履物、寝具とねまき、上着、運動着の順位となっており、又、それらの購入はどのような点を重点視されていますかという問に対しては、材質、耐久性がトップで、次いでサイズ、形態、色彩の順となっており、流行については参考程度となっている。

購入する場合、経済面を重視するあまり、実用一点張りというのも衣類の場合注意したいものである。

表7 被 服 の 購 入 方 法

	購 入 方 法
A	必要に応じて問屋、スーパー・マーケットで購入
B	保母が申請→職員間で相談→購入伺提出→デパート外商部又は特価品売場で購入
C	職員間で相談→係→課長→庶務→園長→業者
D	肌着類は年二回購入、上着はほとんど購入しない その他の被服は保母が必要枚数を調べ申請→許可→業者
E	現金買い
F	指定業者より購入、但し高校生は指定業者で各自購入することもある
G	必要に応じて指定業者にて購入、時には児童と共に買いに行くこともある
J	担当保母よりの申請により、児童と共に小売店やスーパーマーケットで購入
K	指定業者にて物品購入手続きによる
L	必要に応じて近くの商店にて購入

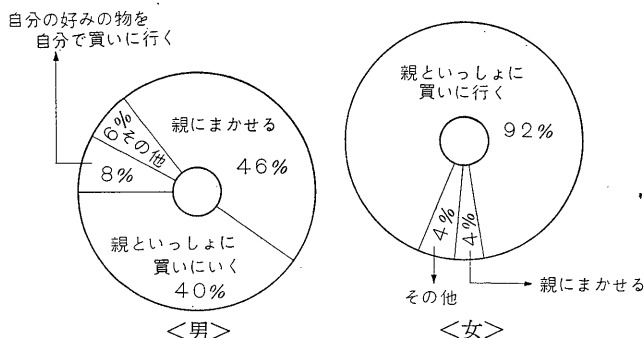
購入時に児童の要求をどの程度かなえていると思われますかという問に対して80%から30%と大きな差があるが、養護施設のみ平均では62%と半分以上希望が満されているようである。(表-8)

一般家庭児童(中学生)の場合、購入は女子では92%が親と一緒にいくと答えているのに対し、男子の場合は、自分の好きなものは自分で買いに行くと答えたのが8%、親と一緒に選ぶが40%、親にまかせるが46%となっている。(図-1)

表8 被服購入時に児童の要求が何パーセントかなえられているか

養 護 施 設		精 薄 施 設	
施設名	%	施設名	%
A	50	J	80
B	70	K	30
C	30	L	ほとんど寄贈品で賄っている為、購入時には児童の意見を聞くようにしている
D	80		
F	80		
G	70		
E・H	解答なし		
平 均	62		

図1 一般家庭児童の衣類購入状況



#### (4) 必要枚数と個人別持数

被服の種類とその数はどの程度が適当かということは、個々人の生活内容に左右されることであるから一般論で云い切ることは困難であるが、児童の場合は、普段着、通学着、外出着と分け、大体の必要枚数はつかむことが出来る。各人の種類と持ち数は少ない程管理面では楽であるが、一枚を破れる迄着続ける。又、履き続けることは、被服の寿命を短かくし、かえって不経済である。

施設に於ては実際の程度用意されているかを調べたのが表-9である。日常生活に支障を起さない程度には揃えられていると思われるものの、予備(着替え)については不十分な状態である。寄贈品で多くが賄なわれているため、種類、枚数に片寄りが目立っている。

衣服の適当な数は、一般には保健衛生上、能率上、容儀上、経済上の各方面から割り出されるものであるが、施設の現状では絶対数が不足しているため、これらにあてはめて種類や枚数の多少を論ずることは無理であろう。

しかし、日常生活に支障をきたさない程度に揃えられているとはいえるものの、特に枚数で目立つ物は、防寒用下着である。(男子のズボン、ズボン下、女子の長袖シャツ等) 又、ねまきは全施設共に少ないが、特に中学生では平均所持数が1枚以下と予想枚数より少ない。

両靴について、学校が近い為必要ないと答える施設もあるが梅雨期、冬期湿った運動靴で通学することは、足の衛生、健康に良いはずがなく、両靴の用意のない施設では、運動靴を少なくとも2足用意する配慮がのぞましいものである。



表9 所持衣類の種類とその枚数

対象…施設児童（市内・府下含めて）男 50名・女49名  
一般家庭児童A 中学1年 男 100名・女100名

その1 中学生  
(男子)

(女子)

種 類		枚 数			種 類		枚 数			
分類	名 称	標準	施設児童	一般家庭児童	分類	名 称	標準	施設児童	一般家庭児童	
上着	レインコート	1	0.3	0.4	上着	レインコート	1	0.4	0.6	
	防寒用コート	1	0.1	0.4		防寒用コート	1	0.4	1.5	
	ジャンパー・ジャケット	2	1.2	2.7		長袖セーター	5	4	6.7	
	セーター	5	4.9	2.1		半袖セーター	2	1.5	2.7	
	チョッキ	1	0.5	1.2		ジャンパースカート	3	1.2	1.5	
	開襟シャツ	3	0.9	2		ブラウス	夏	4	4.2	4.3
	カッターシャツ	3	3	3.8			冬	3	2.2	3.5
	スポーツシャツ	4	1	3		ツーピース (合～冬)	1	0.3	1	
半ズボン	2	0.9	2.3	着	ワンピース	夏	3	2	3.9	
長ズボン	夏	2	1			2.6	合	2	0.3	1.2
	合	3	0.7			1.8	冬	1	0.3	1.6
	冬	3	1		3.4	スカート	夏	3	2.8	3.4
					冬		3	1.7	3.8	
下着	半袖シャツ	4	2.8		4.4	下着	スラックス	2	1.9	3.1
	長袖シャツ	3	2.6	4.4	半袖シャツ		3	2.8	4.1	
	ランニング	4	2.2	4	長袖シャツ		3	1.8	2.9	
	パンツ	5	3.5	6.6	スリッパ		4	4.6	5	
	ズボン下	2	1.2	2.4	着		パンティー	6	4.7	7.2
くつ下	白	3	0.8	1.7		ブルマー	2～3	0.5	1.2	
	色もの	3	2.7	5.6			くつ下	長くつ下	4	2.6
運動着	シャツ	2	1.4	3.4		ソックス		5	4.6	7
	帽子	1	0.6	1.3		ハイソックス・タイツ		2	1.8	4.1
	海水パンツ	1	0.9	1.7	運動着	ショートパンツ		1	1.1	2.9
	トレパン	2	1.2	2.8		トレパン		1	1.1	1.5
	その他の	ハンカチ	5～6	2.2		6.2	体操シャツ	2	1.9	3.1
手袋		2	0.6	1.9		水着	1	0.6	1.3	
傘		1	1	1.6		その他の	ハンカチ	5～6	5.5	9
ベルト		2	1.7	2.8	手袋		2	1.4	2.1	
マフラー		1	0.5	1	傘		1	1	1.6	
帽子	1	0.7	1.4	バック			0.4	3.8		
寝具・ねまき	掛布団	2	1.2	2.2	帽子		2	0.6	2.2	
	敷布団	2	1	1.6	エプロン	1	1.3	1.8		
	毛布	2	1.3	1.8	ゆかた	1	0.3	1.3		
	まくら	1	0.4	1	はきもの	運動靴	2	1.3	1.8	
	ねまき	夏	2	0.6		1.7	雨靴	1	0.9	1
冬		2	0.7	1.5		普段ばき	2	1	2.3	
はきもの	運動靴	2	1.4	2.8	はきもの	外出用	1	0.3	1.4	
	雨靴	1	0.6	0.8						
	普段ばき	1	0.7	1.5	(註) 標準枚数は主婦の友社					

(寝具・ねまき枚数は男女共通)

(註) 標準枚数は主婦の友社

「主婦の友実用百科事典」3

医学・育児編・子供服・子供下着より

表9 （その2）小学生男子

分類	施設		A	B	C	D	E	F	G	J	K	施設平均	標準
	名 称												
上着	レインコート							1				0.01	1
	防寒用コート			2		1	1		1			0.7	1
	ジャケット			3			0.5	2		5	1	0.8	2
	半袖シャツ		2	2	2	4	2	3	1	8	7	2.2	3
	長袖シャツ		2	3	2	4	2	3	2	6	5	2.5	3
	セーター		1	2	1	4	2	3	3	6	5	2.2	4
	チョッキ			1		2	1	2	1		1	1	1
	スポーツシャツ		1~2	2	1	1	1	1	1		2	1.2	4
	ズボン		夏	2	3	2	5	2	3	3	7	6	3
冬			2	3	2	4	2	3	3	6	7	2.7	4
下着・肌着	ランニング		2	2	2	5	1~2	3	1	3	4	2.4	4
	半袖シャツ		2	3	2	4	2	3	3	3	5	2.7	4
	長袖シャツ		2	3	2	4	2	3	4	5	4	2.9	3
	ズボン下			3		3	1	2	3	5	4	1.7	2
	パンツ		2~3	4	2	5	2~3	4	5	4	7	4	5
運動着	トレーニングパンツ		1	2	1	2	1	2	1	2	4	1.4	2
	体操シャツ		1	2	1	2	1	2	1	2	2	1.4	2
	海水パンツ		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
くつ	くつ下		2~3	3	2	3	2~3	3	4	5	8	3	3~4
はきもの	運動靴		1	2	1	2	1	2	2	2	1	1.6	2
	雨靴			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	普段ばき			1	1	2	1	1	1	1	2	1	1
その他	帽子			1	1	1	1	1	2	1	3	1	2
	手袋		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ハンカチーフ		2~3	4	2	2	3	1	2	8	7	2.4	
	傘		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ベルト		1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	
	マフラー		1	1		1	1	1	1	2	1	1	2
	ゆかた					1	1	1		1		0.4	1
寝具・ねまき	敷布団		1	1	1	1	0.5	2	1	2		1	2
	掛布団		1	1	1	1	1	2	1	2		1	2
	毛布		1	3	2	2	1	3	4	2	3	2.2	2
	枕			1	1	1	1	1		1	1	0.9	1
	ねまき	夏		3	1		1	1	1	2	2	1	2~3
冬			2	1	2	1	1	1	2	2	1.1	2	

表9 (その3) 小学生女子

分類	施設		A	B	C	D	E	F	G	J	K	施設 平均	標準
	名 称												
上 着	レインコート				1			1				0.2	1
	防寒用コート			2		2	1	1			1	0.8	1
	ジャケット			3		1	1	1		5	1	1	1
	セーター (カーディガン) (を含む)	半袖	2	1	1	2	1	2	1	1	2	1.4	3
		長袖	2	2	1	4	2	2	1	6	3	2	3
	ツーピース(含〜冬)			2		1	1	2				0.8	1
	ワンピース	夏	2	3	1	4	3	3	2	5	3	2.5	2
		合		2			1	3	1	1		1	3
		冬		1			1	3	1			0.9	1
	ブラウス	半袖	3	3	2	1	2	3	3	3	3	2.4	3
		長袖	3	2	2	4	3	3	4	5	5	3	3
	スカート (ジャンパース カートを含む)	夏	3	2	2		3	2	4	2	3	2.3	3
		合	3	2		4	2	2	3	4	4	2.4	
		冬	3	2	2	4	2	2	4			2.7	3
下 着・肌 着	半袖シャツ		2	2	2	1	1	2	2	3	3	1.7	3
	長袖シャツ		2	2	2	2	3	2	3	4	3	2.7	3
	スリッパ		2	3	2	5	2	2	3	4	3	2.7	3
	パンティー		3	3	2	7	4	2	4	4	4	3.6	6
	ブルマース			1			1			1		0.6	2〜3
運 動 着	ショートパンツ		1	1	1	1	1		1	1	1	0.8	
	トレーニングパンツ		1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	
	体操シャツ		1	2	1	2	2	2	1	2	1	1.6	2
	水着		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
く つ 下	ソックス		3	3	2	4	3〜4	3	5	5	7	3.4	4〜5
	長くつ下		3	2	2	4	3	3	2		2	2.9	
	タイツ・ハイソックス		2	1	1	2	2	2	1		2	1.6	
そ の 他	帽子			2	1	1	1	1	1	1	2	1	
	手袋		1	1		1	1	1	1	1	1	1	
	ハンカチーフ		3	4	2	5	4	1	3	8	3	3	
	マフラー		2	1		3	1	1		2	1	1	
	傘		1	1	1	1	1	1	1	1		1.7	
	ベルト		1				1	1	2			0.7	
	バック			1			1	1		1		0.4	

(註) その2・その3共に ・寝具・ねまき、はきものは男女共通  
 ・施設平均枚数は養護施設(A〜G)のみ  
 ・標準はその1と同じ

表9 (その4) 幼 児

分類	施 設		A	B	C	D	E	F	G	施設平均	標 準
	名 称										
上 着 (男)	防寒コート・防寒ジャケット		1	2			2	3		1	1
	セーター (カーディガン含)		1	5	1	2	2	3	3	2.4	3~4
	ブ ラ ウ ス	夏	3	7	2	3	3~4	4	5	4	3~4
		冬	3	4	2	3	3	4	4	3.2	2~3
	チ ョ ッ キ			3		1	1	1		0.8	1~2
	ズ ボ ン	夏	2	4	2	3	2	4	3	2.8	3~4
		冬	2	4	2	3	2	4	3	2.8	2~3
下 着 (男)	ズ ボ ン 下		1	3		3	1	3	3	2	2~3
	長 袖 シ ャ ツ		3	3	2	3	3	5	4	3.3	3
	半 袖 シ ャ ツ		3	2	2	3	3	5	4	3	3~4
	ラ ン ニ ン グ		2	2	2	4	2	3	1	2.3	3~4
	パ ン ツ		2	3	2	4	4	5	6	3.7	3~4
上 着 (女)	防寒コート・防寒ジャケット		1	3		1	4	5	1	2	2
	セーター (カーディガン含)		6~7	5	1	2	2	3	3	3.2	3~4
	ブ ラ ウ ス	長袖	5	7	2	2	4	3	2	3.6	2~3
		半袖	5	4	2	2	3	3	3	3	2~3
	ス カ ー ト (ジャンパースカート含)	夏	3	3	2	2	3	5	3	3	2~3
		合	3		4	3	4	5	3	3	2~3
		冬		3	3	3	1	5	1	2.3	2~3
	ウ ン ビ ー ス	夏	5	5	1	3	2	3	3	2.7	3~4
		合		2		1	2	3	1	1.8	2~3
		冬				1		3	1		
下 着 (女)	ズ ボ ン		5~6	5	1	1	3	3	1	2.8	
	半 袖 シ ャ ツ		3	2	2	1	2	3	3	2.2	3~4
	長 袖 シ ャ ツ		3		2	3	2	3	3	2.2	3~4
	ス リ ッ プ		2	3	2	4	2	2	2	2.4	3
	パ ン テ ィ ー		4	5	2	6	4	2	4	3.8	3~4
	ブル マ ー ス										3~4
く つ 下 男 女	ズ ボ ン 下			3		2	2		3	1.4	1~2
	短 く つ 下		3	3	2	2	2	1	5	2.5	
	長 く つ 下					1	2	1	2	0.8	
そ の 他 (男・女)	ハイツックス・タイツ				1	2	1	2	1	1	
	帽 子			2	1	2	1	1	2	1.2	
	傘		1	1					1	0.4	
	手 袋		1	1		1	1	1	1	0.8	
	エ プ ロ ン					1	2	1		0.5	3~4
	タオル・ハンカチ		2~3	2	1	2	3	2	2	2	
	靴		1	2	1	2	2	2	3	1.8	
	水 着		1	1	1	1	1	1	1	1	
ね ま き (男・女)	ね ま き	夏	1	3	1	1		1	1	1.1	3~4
		冬	1	2	1	2		1	1	1.1	3~4

### (5) 寝具とねまきの所持数、材質及び形態

睡眠は人間生活にとって欠くことの出来ない大切なもので、熟睡こそ最高の疲労回復法である。そのためにも安眠に必要な寝具、ねまきは充分考慮されている必要がある。理想的な寝具は

- ① 寝心地がよいこと
- ② 暖かく軽いこと
- ③ 汗の吸収がよく、埃がたたないこと
- ④ 取り扱いが容易なこと
- ⑤ 経済的であること
- ⑥ 美感を添えるもの

等の条件が満されているもので、ねまきについては、

- ① 脱着が楽なこと
- ② 汗を吸収しやすく、丈夫であること等がその条件としてあげられている。

施設で使用している寝具、ねまきの実態はどうであろうか。1人当りの所持数は表-10に示す通りで、施設平均、敷布団及び掛布団は1枚強、毛布2枚、枕は1個弱、シーツが1枚強、ねまきは夏冬用各1枚強となっている。枕が1人1個弱ということは、児童の中には枕を嫌がる者や、遊び道具として投げ合う為にもみながらこぼれ修理に困る事等から男子には枕を持たせない施設もある。シーツや敷布団が1人0.5枚というのは幼児の場合でベット数不足や大人用布団に2人ずつ寝かせているためで、幼児はこうした寝具利用をしている施設が目立つ。夜尿児にはシーツ、ねまき、毛布等が2枚程度予備として用意されている。

布団や毛布等の枚数の多少は、特に冬における居室の採暖状況により異なってくるので問題が少ないが、ねまき、シーツ、カバー類は全施設とも少く、特に衛生上一考を要するであろう。

表-11は材質、形態についてであるが、敷布団の綿は硬さや、吸湿性の点で木綿綿が最適とされており、この点については各施設とも問題はないであろう。

掛布団はまだまだ重い方が暖いと感じられる傾向にある。近年化繊綿の軽い掛布団が多くなって来ているので、取り扱いや手入れも容易であるのでこの面でも一考する必要があるであろう。

毛布は毛、化繊、混紡と様々である。色彩はどちらかと云えばグレー系統か黒っぽい物が多く、汚れが目立ち難い物が選ばれているといえる。

ねまきの形体は男女共にパジャマが購入されており、女子のネグリジェ等は寄贈品にまれに入っているもののみ着用しているが少い。材質は夏は木綿のプリントやタオル、冬はネル、タオル類である。

表10 寝具・ねまきの 1 人当りの所持数

(単位:枚)

施 設	敷布団	掛布団	毛 布	枕	シーツ	ね ま き		座布団	こたつ
						な つ	ふ ゆ		
A	1	2	1	0.5	1	1	1		
B	1	1	3	1	2	3	2	1	1
C	1	1	2	1	1	1	1		
D	2	2	2	1	1				暖房完備
E	0.5	1	1	1	0.5	1	1	1	
F	1	1	1	1	1	1	1	1	1 (アンカ)
G	1	1	4						
J	2	2	2	1	2	2	2	1.5	0.5
K	1	1	3	1	2	2	2		部屋に 1 つ
L	1	1.5	1		1	1	1		
平 均	1.2	1.4	2	0.8	1.2	1.2	1.1		
理 想 枚 数	2	2	1~2	1	2~3	2~3	2~3		

(註) 理想枚数は主婦と生活社「これからの家事」P135  
上記表の他夏の掛布団としてタオル掛けがあれば便利である。  
又、枕カバー 2 枚、布団カバー 3 枚程度ある事が望ましい。

表11 寝具・ねまきの材質及び形態

施 設		A	B	C	D	E	F	G	J	K
項 目		①木綿 ③化繊	木 綿	木 綿	木 綿	①木綿 ③化繊	木 綿	①木綿 ③化繊	①木綿 ③化繊	木 綿
		木綿・化 繊	木 綿	木 綿	木 綿	木綿・化 繊	①木綿 ②毛織物	①交織 ②化繊 ③木綿	木 綿	木 綿
夏の掛布団		①タオル ケット ②毛布	毛 布	タオルケ ット	①毛布 ③タオル ケット	毛 布		①毛布 ②タオル ケット	毛布に布 をかける	①毛布 ③タオル ケット
ねまきの形態	男	パジャマ	パジャマ ・ゆかた	パジャマ	パジャマ	パジャマ		パジャマ	パジャマ	パジャマ
	女	〃	〃	〃	〃	〃		〃	パジャマ ネグリジ エ	〃
ねまきの材質	夏	木 綿	タオル・ 木綿	木 綿	木 綿	木 綿		木 綿	木綿ブリ ント・サ ッカー	木綿(ク レープ 等)
	冬	木綿・ネ ル	ネ ル	〃	ネ ル	タオル・ ネル		ネ ル	ネ ル	ネ ル
枕 の 中 味		そばがら	そばがら	そばがら		そばがら			そばがら	
毛 布	材 質	交 織	交 織	交 織		純毛・交 織	純 毛	交 織		交 織
	1 枚の単価	1,000~ 2,000	1,000	2,000		1,700	1,500			
	カバーの有無	無	無	有	無	有	無	古毛布の み有	有	有
掛 布 団	カバーの有無	有	有	有	有	有	有	有	有	有
	材 質	天然木綿	ブロード・ 天然木 綿	キャラコ	天然木綿	キャラコ・ 天然木 綿	天然木綿	キャラコ	ブロード	キャラコ・ 天然木 綿
	掛衾の有無	有	有	有	有	無	無	有	有	有

(6) 児童の衣生活と保母の労働

施設における保母の業務は要約すると、児童の生活指導といわれているが、実際は担当児童に対して、基本的な生活習慣の指導、安全指導、健康管理、余暇指導、衣料管理、学習指導、給食指導等と、それ等児童の日々の指導記録作製など、数えあげればまだまだ沢山あるであろうが、それだけに施設保母は児童の人格形成途上における全領域にわたって大きな負担をもたされているのである。

いづれの施設に於ても、保母は児童の生活に直接触れ合い、衣、食、住に関する児童の基本的を要求を満たしながら、人格的にも良い影響を与え、児童が心身共に健全に育つ要的な位置と仕を持つ者である。児童を担当し、児童の居室を管理する保母の業務内容を、衣生活、食生活、住生活に関する一般任務と、それ以外の特別任務とに分類まとめたのが表-14である。

これらの多様な任務は、勿論、保母が主体となり児童指導員とチーム・ワークを組みながら他の職員とも協力しなければ遂行出来ないものであるが、特に一般任務の衣生活に関するものについては、従来より種々論議が繰り返されて来たものであるが、今なお保母の主要な仕事とみなされており、実際、この処理処置の為明け暮れしているのが現実の姿である。保母の1日の労働時間の40%~50%がいわゆる洗濯、繕いについてやされている。(表-12)

東京都社会福祉協議会児童部会が実施した養護施設保母の勤務時間分析にも平均38.4%と報告されている。(表-13)

施設保母の24時間勤務といわれた勤務状況は極端な表現であろうが、昭和32年の全国平均14時間46分から10年後の昭和42年では、平均9時間と5時間も短縮するという労務管理の改善がなされつつあるものの【註3）、以前として洗濯、繕いに必要な時間はかわっておらず、洗濯、繕い、整理、更生、管理に平均40%、多い施設では77%が費やされておる。

表12 保母の労働時間

施 設	衣	食	住
A	420分	0分	30分
C	240	0	120
D	120	0	60
E	240	60	30
F	180	180	180
G	90	30	30
J	180	0	60
K	240	90	20
平 均	214	38	66

※ (衣生活主に洗濯・繕い)

表13 養護施設保母の勤務時間分析

	1/16 (日)	1/17 (月)	1/18 (火)	平均	%
起 床 指 導	23分	24分	23分	23	4.4
着 衣 体 操	23	19	21	21	4.0
食 事 準 備	96	109	98	101	19.3
洗濯つくろい	136	218	247	200	38.4
話合い 読書	63	27	24	38	7.6
学 習 指 導	26	42	35	34	6.5
お や つ	14	15	19	16	3.1
記 録	23	14	19	19	3.6
職 員 会	14	27	22	21	4.0
事 務	14	7	4	8	1.5
風 呂	5	8	5	6	1.1
就 寝	23	21	17	20	3.8
夜 尿 起 し	10	15	16	14	2.7
計	470	546	550	521	100
	7 時間 50分	9 時間 6 分	9 時間 10分	8 時間 41分	

昭和41年 1月東京都社会福祉協議会児童部会調

表14 保 母 の 任 務

	衣 生 活	食 生 活	住 生 活
一 般 任 務	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 幼児の寝具上げ下し、ねまきの始末と学童のこれらの始末指導。</li><li>・ 幼児の着替え介と指導。</li><li>・ 洗濯</li><li>・ 夜用布団、ねまきの始末</li><li>・ アイロンかけ、繕いや、それらの整理及び管理</li><li>・ 入浴時の着替え指導</li><li>・ 就寝時の指導</li><li>・ 衣類の購入、売却</li><li>・ 洗濯、繕い指導</li><li>・ 季節に応じた衣類の出入れ</li><li>・ 布団づくり</li><li>・ シーツかけ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 食物の購入、調理は専門の職員がおこなわれているので、保母は用意や片づけの指導監督</li><li>・ おやつの分配及其の摂り方指導</li><li>・ 食物の摂り方、作法の指導</li><li>・ 暴飲暴食の注意</li><li>・ 楽しい食事の雰囲気をつくる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 朝夕掃除の監督</li><li>・ 便所の掃除・消毒</li><li>・ 施設内の衛生及び整頓</li><li>・ 戸障子の開閉</li><li>・ 居室の清掃</li><li>・ カーテンづくり</li><li>・ 倉庫整理</li><li>・ ふすま、障子はり</li><li>・ 風呂場の掃除</li><li>・ 畳やその他建具をいためないう様に指導する。(扱い方)</li></ul>
特 別 任 務	<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 健康に配慮を要する児童の予防と看護・つめ切り・入浴・散髪・治療・病院の付添・看病・体重測定</li><li>◎ 就寝指導…学校の用意の準備の習慣づけ・夜尿児の世話</li><li>◎ 幼児保育…児童個別（特別）処遇・児童と共に遊ぶ・談らん・本読み・TV観賞</li><li>◎ 学習指導</li><li>◎ 学校連絡・父兄会出席（学校）・児童父兄の面接・相談所への連絡</li><li>◎ 観察記録をとる（日誌・育成記録）</li><li>◎ 施設外会議出席</li><li>◎ 来客・慰問者応接</li><li>◎ ボランティア指導及びその応接</li></ul>		

ア. 洗濯

新陳代謝の激しい児童達の内外からの汚し方はすさまじく、毎日清潔な衣服を着せるためには、洗濯は保母の最も重要な仕となっている。洗濯物は幼児のもの全てと学童が洗濯困難なもの等で、下着、肌着等は普通入浴後（入浴回数は平均月週2回程度）行い、毛布、シーツ、ねまき等は大体の予定をたててなされている。しかし洗濯量を更に増加させているものとして夜尿児の物があげられる。又、近年各施設とも幼児の入所が多くなりつつある傾向と夜尿児は各施設とも平均10%から15%といわれるが、洗濯量及び回数に拍車をかけている。

表-15 は各施設における洗濯状況をまとめたものである。

設備の良い、悪いは当然労働時間も長くなり、労力もいる。季節によっても保母の労働時間と内容はかなり伸縮している。

洗濯設備の充実をはかることをより一層の考慮をなさるべきであろう。

イ. 整理及管理

日常、児童が衣生活を確保されているということは、必要種類、枚数が整理、管理されていること、衛生的な状態に保たれていること、よく修理されていることを意味する。

施設に於ては季節の変り目に先立って行なわれる衣類の出し入れは、衣類管理中の大仕事であり、全児童の整理が出来る頃には、次の季節の準備をしなければならないということもよくあるという。



表15 児童数とその構成及び洗濯状況

施設	養 護 施 設								精神薄弱児施設		
	A	B	C	D	E	F	G		J	K	L
収容定員	70	60	80	80	40	70	70		45	80	60
現在 員 数	男 39 女 50	男 17 女 50	男 20 女 38	男 35 女 57	男 19 女 29	男 39 女 60	男 32 女 53		男 26 女 43	男 42 女 70	男 31 女 56
児 童 構 成	1 ～ 6 才	男 9 女 3	男 4 女 1	男 2 女 2	男 20 女 8	男 7 女 3	男 10 女 3	男 1 女 2	1 I Q 35 以下	男 0 女 1	男 6 女 1
	7 ～ 9 才	男 7 女 2	男 4 女 5	男 4 女 1	男 5 女 1	男 5 女 6	男 5 女 7	男 9 女 7	4 I Q 35 以下	男 3 女 1	男 6 女 3
	10 ～ 12 才	男 10 女 1	男 6 女 9	男 5 女 5	男 6 女 4	男 2 女 4	男 8 女 3	男 8 女 6	7 I Q 35 以下	男 14 女 5	男 3 女 2
	13 ～ 15 才	男 13 女 5	男 2 女 8	男 8 女 10	男 4 女 8	男 4 女 1	男 14 女 8	男 11 女 3	6 I Q 35 以下	男 16 女 5	男 12 女 8
	16 ～ 18 才	男 0 女 0	男 1 女 10	男 1 女 0	男 0 女 1	男 1 女 1	男 2 女 1	男 3 女 3	8 I Q 35 以下	男 10 女 9	男 8 女 5
	指導員数	2	5	2	3	2	2	4	2	4	5
	保母数	7	5	2	12	3	7	6	7	9	7
	保母1人に対する児童数	7	10	12.6	4.6	9.3	8.6	9	6	8.3	8
	調理人(使用人)	男 1 女 2	男 1 女 1	男 2 女 2	男 3 女 3	男 3 女 3	男 2 女 2	男 1 女 2	女 2	女 3	女 4
	児童が洗濯するもの	中学生以上の女子は自分の物全て、中学以上の男子は下着と靴下程度	小学4年以上は自分の物全て、小学5年以上は下着と靴下程度	小学高学年以上は下着、肌着、靴下、カッター類、身の回り小物類	小学高学年以上は下着、靴下、カッター類、身の回り小物類	小学高学年以上は下着、靴下、カッター類、身の回り小物類	中学男子はカッター・靴下、中学女子は自分の物全て	高学年以上は自分の物全て、低学年は下着、靴下、身の回り小物類	高IQ児は高学年の全児童のもの全て、高IQ児は高学年の全児童のもの全て、高IQ児は高学年の全児童のもの全て	高IQ児は高学年の全児童のもの全て、高IQ児は高学年の全児童のもの全て、高IQ児は高学年の全児童のもの全て	高IQ児は高学年の全児童のもの全て、高IQ児は高学年の全児童のもの全て、高IQ児は高学年の全児童のもの全て
寝 具 ・ ね ま き の 手 入 れ	シーツ	1	8	1	1	1	1	0.5	2	3	
	カバー	1	8	1	1	1	1	0.5	1	3	
	ねまき	2	12	2	3	2～3	3	3	冬 3 夏 6	2	
	夜尿児の寝具ねまき	*	〃	〃	〃	*	〃	〃	〃	〃	
	日光照射回数(1ヶ月) 綿の打直し(年)	2 1	4 1	2 1	1 1	3 0.5	1 1	2 0.5	回数決めます 晴天日毎に干す	天気次第	
ク リ ー ン グ 屋 に 出 し ま す か 。 出 す 物 干 し 場 の 広 さ は 充 分 で す か 。	洗濯機(台数)	3	2	2 (内工業用1台)	3 (内工業用1台)	2	3	3	3 (内工業用1台)	2 (内工業用1台)	2
	乾燥機(台数)	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1
	アイロン(台数)	3	1	2	2	1	2	3	2	2	1

\*ねまき・シーツはその都度洗濯するが、布団は日に干し、始めは打直しもきくが、最後には打直しもきかず、廃棄処分にする。

表-16 は各施設における衣類管理を調べたものを月別にまとめてみたものである。衣類管理は非常に計画性、能率性を必要とする仕事であり、実に多方面にわたっている事と、保母の労働過重になる要因でもあろう。

保母の労働内容は衣生活面のみをみても多種多様にわたり、児童の身心の健全な育成にとっ  
又児童と起居を共にしている施設保母にとって1日として、手を休めることが出来ないのであ  
る。

これらの仕事は、児童員数とその構成（性別、年令別、知能の高低、入所時期、施設生活経験の多少等）施設の設備、経営（経済）状態、生活態度、季節、環境等が労働時間及び内容を大きく左右していることは見逃せない。

施設における衣生活に関する仕事は、特別の知識がなくとも、まがりなりにも処理することが出来るであろうが、しかし、今日の時代に即応した豊富な知識と的確な処置を必要とする技術を持たないことには、時間、労力、経費を節約し、又、合理的な運営は出来ないであろう。

表16 12ヶ月の衣生活カレンダー（衣類の管理）

月	項 目
1月	・衣料プラン1年の計。せめて上半期中に購入しなければならないものについて考え、費用についても計画を立てる。
2月	・秋の終り頃から着始めた冬物普段着の汚れが目立ってくる頃で、中間の手入れを必要とする。 ・春に着用するものの準備を考え始める。
3月	・春物を出し、しわを伸ばし、防虫剤の臭いも消して、丈や巾を調べ直しておく。 ・大きな冬物始末の手配をする。 ・新入学・進級する児童の用意（新学期の通学服の準備）
4月	・冬物衣類の整理（梅雨から夏にかけて、防湿・防虫に気をつける。） ・合物の用意。
5月	・薄物の上着やカーディガンを防いで春物をしまふ。 ・夏物を準備する。 ・梅雨を前にして、雨具の点検をする。
6月	・夏布団の準備。 ・ぬれた雨具や衣類の手入れ。 ・雨の晴れ間に合着の始末・布団や傘を日に干す。 ・押入れの中の湿気に気をつける。特に布団。天気の良い日は押入れ、戸棚を開ける。
7月	・臨海キャンプ行きの準備。 ・梅雨があければ、雨具の整理、押入れの湿気を払い、布団を出して、偶々まで日に当て風を通す。 ・衣類ダンスの中を入れかえる。 ・下着類の洗濯は小まめに、汗ばみやすくなるので清潔に注意。 ・合着・冬着のつくろい、更生をする。
8月	・冬の寝具の手入れ（綿の打直し・つくりかえ） ・防虫剤や防湿剤の補給 ・新学期の通学服や合着の手入れ
9月	・夏衣類の整理と秋衣類の順備 ・蚊帳の始末・夏布団の始末 ・冬寝具の用意……いつでも使えるように用意しておく ・薄着の習慣をつけさせるよう訓練する ・雨具の完備……台風シーズンを前に、又秋雨がよく降るための用意に

10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の衣類をしまう。合着～冬着と入れ替える。(保存箱には中に入れてある物を明記しておく)</li> <li>・夏のはきものをかたづける。</li> <li>・冬着の準備……手袋、くつ下等の小物類・防寒用下着もぼつぼつ準備する</li> <li>・修学旅行があればその用意</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防寒着の点検(裏地のほころび、ボタンのゆるみ、ポケット穴の補修)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正月用衣類の用意</li> </ul>

## 結 び

施設における衣生活実態調査の実施の目的は、健康で文化的な生活が確保され、児童の健全な身心の発達に十分適合した被服が調達され、児童が児童らしい生活、特に衣生活の面で必要な被服管理がなされているかにあるが、児童の衣類については、一通りの必需品は取り揃えられている、しかしながら経済的な制約のもとに、予備品<sup>〔着替え〕</sup>等は実に乏しく、衣類の多くは依然として寄贈品でまかなわれており、寄贈品なくしては施設の衣生活を営むことは不可能であろう。従って、児童個々の希望や要求を満足させることが出来ないのが実情である。このことは又、前述の表-1の年次推移にも見られるように如何に措置費の基準の低いかを如実に物語るものである。消費者物価の上昇はここ数年平均5.7%を示しており、被服費についても41年4.9%、42年6.1%、43年12.3%と大幅に伸びている<sup>(註4)</sup>。施設における衣生活の確立は、措置費の大幅な増額が必要である。

健全な日常生活を営むにあたってまず健康でなければならない。この点施設の食生活面では改善、向上を重ね、炊事を保母が兼務する施設は段々と少なくなり、専門の栄養士、調理士を置いて、又食生活に関する研究もなされ健康管理、体位向上に努力が払われているが、衣生活面についてはその必要が云々されながら調査研究が少く、資料文献等にも乏しい現状である。

近年、養護施設の措置児童は年少児及び欠損家庭による崩壊家庭児童の増加等質的に変化して来た。このことから種々問題が派生している。治療教育の場としての施設は常に児童の人格形成の上に留意しなければならない。この点からも今日の保母の最も重要な任務は、綿密な調査、診断、記録、日常の観察を通して、充分個人を認識、理解し、個別指導する機会を多く持たなければならない。個々の児童に接し、心のふれ合いの内に感情を受け止めそれに答えていかなければならない。従って保母はより高度な専門知識、専門技術の修得が要求されるのである。

しかし、現実の保母の任務は日々雑用とも云うべき洗濯、繕い等の仕事や、それら进行处理することのみに追れ、養護技術の修得等に要する時間は無きに等しい現状である。洗濯、繕いを専門とする職員を置ぬ限り、それらは保母がしなければならず、保母の任務が衣類の管理が主である訳ではないが、そうせざるを得ない状態に置かれている様である。1日の平均時間の約40%前後を洗濯や繕いに費やされていることは、望ましい保母と児童の接触は無理なことであり。保母の任務確立こそ急務であろう。

本調査を実施するにあたって、養護施設においては、和敬学園、つばき園、平安徳義会、迦陵園、積慶園、桃山学園第2課、双葉寮、青葉学園、舞鶴学園、精神薄弱児施設においては白川学園、大照学園、福知山学園、桃山学園第1課の各施設の協力と、つばき園大江園長には調査票作製の上に指導を受け、桑田明子氏には調査票作製、調査、集計等に協力していただいたことをこの稿をかりてあつく謝意を表するものである。

- 註 1. 「衣」とは、被服（着る物一切、履物、寝具、傘、その他一切の身の回り品）の事を指し、衣生活とは、これらの購入、整理、管理、指導、運営等被服に関する一切をいう。
- 註 2. 被服寝具費とは、普通被服（上着、下着、肌着、寝具、ねまき、履物、傘、装身具、その他一切の身の回り品）の新調費、修繕費、洗濯費及び裁縫用具費等被服に関する一切の費用を含む費目のことをいう。
- 註 3. 全国社会福祉協議会調査
- 註 4. 昭和44年国民生活白書経済企画庁編P.17（一般世般の費目別消費支出の推移）より

参 考 文 献

斉藤 兼、杉本一義編	養護原理	川 島 書 房
大谷義郎、吉沢英子著	養護原理	誠 信 書 房
糸賀、浦辺、積 編	施設養護論	ミネルヴア書房
碓井隆次著	施設収容児童の養護原理	家政教育社
一番ヶ瀬康子外共著	日本の児童福祉	生活科学調査会
斉藤 謙著	児童養護実習	川 島 書 房
厚生省児童局編	養護施設運営要領	
経済企画庁編	目でみる国民生活 昭和42年度	
〃	国民生活白書 昭和43. 44年度	
鈴木義鑑著	被服管理学	槇 書 店
庄司 光著	衣服の衛生学	光 生 館
槇山光子著	「改訂」家庭経済学提要	光 生 館
主婦の友社編	実用百科辞典、3巻、5巻	主 婦 の 友 社

参 考

調 査 用 紙

謹啓 貴園にはますますご精祥のこととおよろこび申し上げます。

さて、この度は突然のお願いにて誠に恐縮とは存じますが、実は当研究室におきまして、「養護施設（精神薄弱児施設）における衣生活の実態」を研究主題に、調査を実施することになりました。つきましては誠にご多忙中とは存じますが、この調査についてお力添えをいただきたくお願い申し上げます。

我々人間が社会の中で生きていくための基本的要求を最小限に満たすものが、衣・食・住であります。児童の健全な育成は、これら3つ、即ち衣生活、食生活、住生活の相互のバランスを保持することにより達成されるものであると考えます。

今日、養護施設（精神薄弱児施設）におきましては、低い保護単価・激しい物価高・人手不足のもとに衣生活は食生活に優先され、改善の必要が叫ばれながらも、まだまだ立ち遅れている現状があります。

衣服は、ただ着ておればよいとか、保温・皮膚の保護等の実用的な機能や保健衛生的な機能の手段としてのみあるのではありません。人間本来持っている美に対する要求は自分を美しく見せたいという事からまず被服に現われますが、それは児童の身心の発達、特に情緒面の発達に微妙な影響を与えるものといわれています。

児童のおかれている社会的立場・情緒面の発達・身心の発達に十分適合した被服が調達されているのだろうか。

能率、経済面に重きをおくがゆえに、児童の要求、好み、個性はその枠内で十分生かされているのだろうか。

以上の観点に立って、この調査は、「養護施設（精神薄弱児施設）における衣生活の実態」把握と同時に「養護施設（精神薄弱児施設）における衣生活のあるべき姿」求めるための基礎資料の1つにしたいと考えております。貴園には決してご迷惑をおかけするようなことは致しませんので、この調査趣旨をご理

解いただくと共に、調査の実施、調査の提出に格別のご高配を賜わりますよう、よろしくお願い申し上げます。

付記 調査要項

1	調査の名称	養護施設（精神薄弱児施設）における衣生活実態調査
2	調査の趣旨	養護施設（精神薄弱児施設）における衣生活の実態把握と今後どうあらねばならないかを研明する。
3	調査の内容	児童、職員状況、環境、各施設における事務費の内訳とその年次推移、被服の寄贈品について、被服、寝具の状況、衣生活指導、被服管理と保母の労働、被服所持数、衣生活意識調査
4	調査の対象	京都府下の養護施設及び精神薄弱児施設
5	調査結果のご提出期限	昭和43年 8月31日
6	調査結果のご提出先	京都市北区紫野北花ノ坊町96 佛教大学 社会福祉研究室

養護施設（精神薄弱児施設）における衣生活実態調査表										(その1)
施設名	種別	所在地								

1. 児童・職員状況（昭和43年8月1日現在）

児童数										職員数									
収容定員	現在員数	性別	年齢	1~6才	7~9才	10~12才	13~15才	16~18才	園長	指導員	保母	職業指導員	書記	雇用人(調理人)	小使	嘱託医	計		
(人)	(人)	男																男	
		女																女	
精神施設の場合				IQ 35以下		男	名	女	名	IQ 35~50		男	名	女	名	IQ 51~75		男	名

2. 職員の居住状況

通 勤										園長	指導員	保母	職指	書記	雇用人	小使	嘱託医	計
住込み	児童と同室に居住																	
	同一建物の別室に居住																	
	同一敷地内の別の建物に居住																	

3. 環境

施設内										施設外									
敷地面積		m <sup>2</sup>		延建坪		坪		居室数		室		周囲の住宅状況							
屋外設備		各種遊具																	
		運動場		有・無		砂場		有・無		プール		有・無							
屋内設備		居室の設備品																	
		遊戯室の設備品																	
児童通 学 校 名		児童室		有・無		テレビ		有・無		設置場所		図書		(雑誌etc.)		有・無		児童公園・児童遊園	
		小学校																有・無	
		中学校																	
		高等学校		全日制															
				定時制															

※ 該当するものを○でかこんで下さい。

4. 事業費

措 置 費	— 事 務 費		— 飲食物費	
	— 事 業 費	— 生活諸費	— 日常生活費	被服寝具費〔A〕
				日用品費〔B〕
				保健衛生費〔C〕
				教育費〔D〕
				入進学支度金〔E〕
				生活指導訓練費〔F〕
		— 生活諸費以外の事業費		

※ 上記の内訳項目は衣生活に関係あると思われるものです。

④ 貴園では、下記の被服、その他物品は、左のどの項目に該当しますか記号で記入して下さい。  
※該当する項目のない場合は備考欄に記入して下さい。

肌 着・下 着	ベ ル ト	裁縫用具(糸・針)	
上 着	帽 子	靴 の 修 理	
制 服(学生服)	く つ 下		
寝 具・寝 衣	タ オ ル		
は き 通 学	カ ー テ ン		
も の 替 換	石ケン	洗 濯	
手 袋		化 粧	備 考
ハ ン カ チ	ク リ ー ニ ン グ 代		
傘	ボ タ ン ・ フ ァ ス ナ ー 等 の 衣 服 の 附 属 品		

(その2)

③ 年次推移

年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
事業費の年次推移																					
飲食物費の																					
日常諸費の																					
被服費の																					

5. 寄 贈 品

①

項 目	順序
下 着 ・ 肌 着	
上 着	
運 動 着	
寝 具 ・ 寝 衣	
は き も の	
そ の 他	

②

項 目	順序
新 品	
中 古 品 (はてつを必要としないもの)	
中 古 品 (はてつを必要とするもの)	
はなはなくはてつを必要とするもの	
魔 索 処 分	

③

男物・女物のどちらが多いですか	男物・女物
年令別にみて多いものから 順位をつけて下さい。	1～6才
	7～12才
	13～18才
時期としてはいつ頃が多いですか	
他施設と比し多いと思いますか	はい・いいえ
保護者からの寄贈	有 ・ 無

④

寄贈品に対する御意見、御希望 をご記入下さい。
----------------------------

※多いものから順位をつけ  
て下さい。

6. ①被服の管理について

購 入 方 法											備 考	
購入度合の多いものから 順位をつけて下さい	下着・肌着	上 着	運 動 着	寝具・寝衣	はきもの	そ の 他					備 考	
下着・肌着の材質につ いて多い方に○をつけ て下さい。	幼 児	木 綿 化 繊		衣服購入には児童の要求、好みが生かされていますか								
	学 童	男	木 綿 化 繊	30%以下    30%    50%    70%    70%以上								
		女	木 綿 化 繊									
児童の要求・希望の相 違 (被服に対する関心度)	幼 児											
	小 学 生 (低学年)											
	小 学 生 (高学年)											
	中 学 生 (男)											
	中 学 生 (女)											
	高 校 生 (男)											
	高 校 生 (女)											
予算内での購入にはどのようなことを重点的に選ばれますか順位をつけて 下さい。(同程度のものは同じ番号をつけて下さい。)	材 質	サ イ ズ	色 彩									
	形 体	流 行	耐 久 性									
洗 濯 物	児童が洗濯するもの											
	保母が洗濯するもの											
	クリーニング屋へ出すもの											
洗濯方法											Iヶ月の洗濯石ケン代	円
洗濯干し場の広さは充分ですか	はい・いいえ	洗濯機	台	乾燥機	台	アイロン	台					
保母の労働 時間(1日)	衣	洗濯・アイロンかけ・熨いもの・あみもの	時間	住	内外の掃除・室の装飾	時間	備 考					
	食	買物・調理・片付け等	時間	その他	事務(記録・その他)	時間						
不要衣服(洋服)の処分方法・多いものから順位をつけて下さい。	不足している被服											
くず屋へ、売 る	は お っ て お く											
古物商へ、売 る	そ の 他											
更 生 す る	不 明		備 考									
外出着の調整について												

## ③ 寝具・寝衣の状況

(その 3)

所持数	敷布団	掛布団	毛布	枕	シーツ	寝衣	座布団	こたつ	蚊帳	使用する 使用しない	使用する場合は答えて下さい。			
1人当り(蚊帳を除く)					夏	冬				材質	色			
使用布団綿の材質に○をつけ、使用度数の多いものから順位をつけて下さい(○をつけたもののみ)	○印		木綿綿	絹綿	カボック	パンヤ	化繊綿	羽毛	藁					
	順位													
使用布団布の材質に○をつけ、使用度数の多いものから順位をつけて下さい(○をつけたもののみ)	○印		木綿	絹	毛織物	麻	化繊	交織						
	順位													
夏期の掛布団はどのようなものを使用していますか、順位をつけて下さい										うすい綿の掛布団		タオルケット	毛布	その他
寝衣の材質	夏				寝衣の形状	男	幼児			女	幼児			
	冬						学童				学童			
枕の中味	もみ	がら	パンヤ	スポンジ	羽毛	その他	毛布について							
寝具及び寝衣の手入れ	日光曝射		ひと月		回	材質 純毛 交織 化せん								
	シーツ、布団カバーの洗濯		ひと月		回	一枚の単価								
			布 団 カバ ー		ひと月	回	円							
	寝衣の洗濯		ひと月		回	毛布にはカバーがかかっていますか								
	綿の打直し		年		回	は い・い い え								
不要寝具毛布と布団の処分方法						掛布団について	布 団 カ バ ー	かけている・かけていない						
寝具・寝衣に対する御意見、御希望							カバーを使用している場合の材質	キャラコ・ブロード・天じくもめん・かなきん・夏洋服地						
							冬の掛布団の重量(1枚当り)	kg						
						掛け枠はかかっていますか	は い・い い え							
						寝具の始末について								

(※該当するものを○でかこんで下さい。)

## 7. 衣生活指導について

被服の着脱 遠定・修理 寒暖に対する 調整及び 寝具の始末に ついての指導	〔幼 児〕
	〔学童7～12才の男〕
	〔学童7～12才の女〕
	〔学童13～15才の男〕
	〔学童13～15才女〕

被服の着脱・修理・洗濯に対する調整及び寝具の始末等についての指導	(16才以上男)
	(16才以上女)
生活指導訓練費の使い道	

(その4)

## 8. 幼児、学童(小学生)の被服所持数……(1人当り)

幼 児

小学生(男)

小学生(女)

名 称	枚数	名 称	枚数	名 称	枚数	名 称	枚数	名 称	枚数	名 称	枚数
上着		上着		上着		上着		上着		上着	
ジャケット		ジャケット		シャツ	半袖	短くつ下		コート	レインコート	ショートパンツ	
セーター		コート		(ブラウス)	長袖	長くつ下		防寒	運動・作業用	ブルマー	
(カーディガン含)		ブラウス	半袖	セーター		敷布団		ジャケット		トレパン	
シャツ	夏	長袖		(カーディガン含)		寝衣・寝具		セーター	半袖	体操シャツ	
(ブラウス)	冬	セーター		チョッキ		寝衣・寝具		(カーディガン含)	長袖	水着	
チョッキ		セーター		ジャケット		寝衣・寝具				エプロン	
ズボン	夏	スカート	夏	コート	レインコート	寝衣・寝具		ワンピース	合	ソックス	
冬		合	冬	防寒		寝衣・寝具		冬	冬	長くつ下	
ズボン下		ワンピース	夏	ズボン	夏	寝衣・寝具		ワンピース	合	防寒用タイツ	
長袖シャツ		合	冬	冬		寝衣・寝具		冬	冬	ハイソックス	
半袖シャツ		ジャンパー	夏	スポーツシャツ		寝衣・寝具		ワンピース	合	帽子	
ランニング		スカート	合	ランニング		寝衣・寝具		冬	冬	手袋	
パンツ		冬		半袖シャツ		寝衣・寝具		スカート	夏	ハンカチーフ	
短くつ下		ズボン	合	長袖シャツ		寝衣・寝具		(ジャンパー・スカートも含)	合	のマフラ(スカーフ)	
長くつ下		半袖シャツ	冬	ズボン下	夏	寝衣・寝具		冬	冬	傘	
防寒用		長袖シャツ		冬		寝衣・寝具		ブラウス	夏	ベルト	
(ハイソックス・タイツ)		ズボン		パンツ		寝衣・寝具		合	合	(通学以外のもの)	
帽子		半袖シャツ		トレパン		寝衣・寝具		冬	冬	ゆかた	
傘		スリッパ		体操シャツ		寝衣・寝具				その他	
手袋		パンティー		海水パンツ		寝衣・寝具		下着・肌着			
エプロン		ブルマース		運動靴		寝衣・寝具					
タオル(ハンカチ)		ズボン下		雨靴		寝衣・寝具					
靴		敷布団		普段ばき		寝衣・寝具					
水着		掛布団		皮靴		寝衣・寝具					
		毛布				寝衣・寝具					
		枕				寝衣・寝具					
		寝衣	夏			寝衣・寝具					
		冬				寝衣・寝具					

## 9. 被服の購入分と寄贈分の割合

購入分	寄贈分
下着・肌着	70% 30%

幼 児	購入分	寄贈分	小学生	購入分	寄贈分	中学生以上	購入分	寄贈分
下着・肌着			下着・肌着			下着・肌着		
上着			上着			上着		
寝具・寝衣			運動着			運動着		
はきもの			寝具・寝衣			寝具・寝衣		
その他			はきもの			はきもの		
			その他			その他		

## 10. 保健、容儀、経済上からの今日の施設における衣生活について御意見、御希望をお聞かせ下さい。